



東桜コンピテンシー2019「⑨創造力」について ～その2～

⑨「創造力」

「他人と同じことをよしとせず、常に新しい、より良い方法やアプローチがないかを考える力。既存の考え方や発想をもとにしたときでもその延長線上ではない、新しい付加価値を備えたものに昇華させることができる力。」

(i)「多様性」と「寛容さ」を大切にしながら創造性を発揮しよう

いま必要とされている力の一つに「他者と協働しながら新しい価値を創造する力」があります。ここでいう「他者と協働しながら」取り組む際の考え方や手法にはどのようなことがあるでしょう。たとえば、東桜学館の探究活動でもお馴染みのブレインストーミング（ブレスト）やデザイン思考に基づく「Yes, And」の考え方を思いついた人がいるのではないのでしょうか。

ブレインストーミングは、テーマについて自由にアイデアを出し合うときの手法ですが、次のようないくつかの約束事があります。

- ・「質より量」を大事にする。

できるだけ多くのアイデアを出すことを心掛けます。その際は、こんなことを言ったら笑われはしないかななどの心配はせず、思いついたことをどんどん言うようにします。

- ・「批判をしない」

アイデアを出しやすくするため、他人の意見を批判しないようにします。

- ・「連想と結合」

ほかの人の意見を聞いてそれに触発され、連想を働かせ、あるいは他人の意見に自分のアイデアを加えて新しい意見として述べるというのも一つのやり方です。

また、デザイン思考に基づく「Yes, And」の考え方では、「いい考えだね（Yes）。じゃあそれに加えて（and）・・・」「賛成（Yes）。では次に（and）・・・」と話が前向きに建設的に進めるようにしていきます。

一人で考えているときは、いき詰まってもんもんとしていたのに、人と話しているうちにいいアイデアが思い浮かんだという経験を、私も数えきれないほどしています。「三人寄れば文殊の知恵」という諺もあるように、多様性と寛容さを大切にしながら、さまざまな意見を出し合うことができる場を整えることが、創造性が発揮される環境をつくる一つの方法です。

(ii) 創造力を養うには

「創造力」は、トレーニングすれば確実に身に付くものではないかもしれませんが、創造性を発揮するための工夫はできそうです。

まず、そのベースとして次のことが必要だと思います。

- 1 ロジカル・シンキングの方法やクリティカル・シンキングの態度が身に付いている
- 2 挑戦を楽しむことができる

物事を論理的に考えること（ロジカル・シンキング）ができる人、前提を疑い、情報を鵜呑みにせず、常に「なぜか？」という問いを自分の中に持ち続けるといった批判的に考える態度（クリティカル・シンキング）が身に付いている人は、創造性が高くなるでしょう。

また、創造力のある人は「成功の反対は失敗である」とは考えていません。自分は正解のない世界を切り拓いており「数々の失敗の延長線上に成功がある」という捉え方をしています。創造力のある人は挑戦を楽しむことができる人とも言えるでしょう。

(iii) 「既存の考え方や発想をもとにしたときでもその延長線上ではない、新しい付加価値を備えたものに昇華させることができる力」

ここで、「既存の考え方や発想をもとにしたときでもその延長線上ではない、新しい付加価値を備えたものに昇華させること」の例として、NHK ニュース「おはよう日本」で放送されたある IT のベンチャー企業を紹介します。

工場の強みを引き出す IT ベンチャーが、町工場の仕事の受注を変えようとしています。

◎「救世主」のシステム導入 取引先が大幅に拡大

部品加工を手がけるある町工場があります。取引先であるメーカー2社からの発注は年々減少し、売り上げの低迷が続いてきました。しかし2018年に、あるITベンチャーが開発した仕組みを導入したところ、注文が殺到し、新たな取引先からの売り上げが4割を占めるまでになったそうです。

その町工場の社長さんは「もう板金業界の『救世主』ですよ。どんどん仕事を持ってきてもらって」と言います。

◎AIがメーカーと町工場つなぐ 数秒で見積もりまで提示

この工場が「救世主」と呼ぶITベンチャーは、メーカーと町工場をつなぐ独自のシステムを開発しました。AIを使えば受注発注のむだを省けると考え、独自のプラットフォームを開発したのです。

メーカー側が欲しい部品の設計図をサイトに上げると、ITベンチャーの会社が全国から最適な工場を選び、わずか数秒で見積もりまで提示する仕組みです。

◎足で稼いだ情報を AI が学習

画期的なシステムを支えているのは、IT ベンチャーの緻密な情報収集です。町工場を一軒一軒訪ね、どんな加工技術を持つのか聞き取り、その情報を 500 以上の項目に分けて入力し、AI に学習させます。AI は、メーカーから送られた設計図を基に必要な工程を洗い出し、どの工場がどれぐらいの時間でできるかを計算。最適な組み合わせを自動でつくり上げるのです。このシステムは現在、メーカー3000 社と町工場 110 社に利用が拡大しています。

◎クリック一つで発注 メーカーにも利点

この受発注の仕組みはメーカー側にもメリットがあります。メーカーは会社によっては、数百件にも上る部品を発注しているので、とても手間がかかります。それがクリック一つでできるようになるわけです。開発した IT ベンチャーは「メーカーにとってのアマゾンを目指す」とも意気込んでいました。

(参考) 創造力とは | 「フツーの人」が創造力を養う 5 つの方法

令和元年（2019 年）12 月